

地域公共交通計画の一部修正について

地域における自動運転レベル 4 の実装に向けては、十分な準備が必要であり、短期で実現できるものではなく、計画的・段階的に実施していく必要がある。

よって、今年度計画している自動運転レベル 2 による実証運行を単なる実証運行に留めず、レベル 4 を目指した将来の持続可能な公共交通の実現に資する施策として位置付け、引き続き地域で取り組みを進めていくために、地域公共交通計画において、自動運転レベル 4 実現に向けた取り組みについて具体的な追記を行う。

■ 基本方針Ⅴ.最新技術も活用した便利で利用しやすい公共交通

目標⑫	最新技術を活用した運行の効率化に関する研究と検討
目的	・EV 車両、グリーンスローモビリティといった SDG s に対応する車両や、自動運転技術、AI によるデマンド配車システムといった効率的な運行システムを可能とする最新技術について、地域の移動に関する課題を解決するものとなり得るか研究・検討を行うものです。
事業内容	【施策 5-1】 最新技術に関する情報収集と活用可能性の検討（実施者：協議会、交通事業者） ・新技術については、常に情報収集を行い、分科会・協議会の場で積極的に情報共有し、地域の移動に関する課題を解決する持続可能な公共交通体系の構築に向けた検討を続ける。 ・乗務員不足が深刻化の中で、自動運転レベル 4 による運行を目指して実証運行に取り組む。

目標⑬	デジタル化による情報発信強化・利便性向上
目的	・バスロケーションシステムの導入や地図アプリとの連動による公共交通に関する情報へ気軽にアクセスできる状況や、キャッシュレス決済により便利に利用できる状況を整備することで公共交通の利便性向上を図るものです。
事業内容	【施策 5-2】 GTFS データ整備・更新とオープンデータとしての公開、バスロケーションシステムの導入（実施者：交通事業者） ・GTFS データを整備・更新し、オープンデータとして公開することで、運行情報を多様なデジタル媒体で活用できるデータとする。 ・GTFS データの整備とともにバスロケーションシステムを導入することで、デジタルサイネージ等を活用したバス待ち時間の表示等に活用 【施策 5-3】 キャッシュレス決済の導入（実施者：交通事業者、坂出市） ※利便増進事業 ・IC カード決済や QR コード決済等の両替や小銭のいらぬ利用しやすい決済方法の導入を検討 ・キャッシュレス決済を利用した乗り継ぎ割引等を検討

目標⑭	デジタルマーケティングを活用した利用促進や分析
目的	・乗降センサーを導入して、バス停ごとの詳細な利用状況を把握や、SNS 等を活用して効果的な情報発信やニーズの収集を行うことで、利用促進や運行の改善に取り組むものです。
事業内容	【施策 5-4】 乗降センサーの導入による利用実態の把握（実施者：協議会、交通事業者） ・乗降センサーの設置等による乗降場所別の正確な利用実態の把握し、利用実態を分析 ・利用実態に応じた運行ルート・バス停・時刻表等の見直しやバス停等施設の改善の検討 【施策 5-5】 SNS 等を活用した情報発信やニーズの把握（実施者：交通事業者、坂出市） ・SNS による情報発信 ・公共交通のモデルルートや、路線沿線情報の提供など、利用したくなる情報発信（アナログを含む） ・WEB アンケート等による利用者のニーズの収集